

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

1分間に17人(内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

ハンガーゼロ・ニュース

2024

7

No.408

## 大阪マラソンの募金246万円に

今年2月開催の「大阪マラソン2024」の大会事務局からハンガーゼロへの募金総額が2,462,657円となりました。チャリティランナーさんと応援いただきました皆様に心から感謝申し上げます。いただいた寄付は、世界の飢えと貧困のなかで苦しんでいる人々のために用いさせていただきます。

FHIF 総会及びコンゴ民主共和国と周辺国での活動調査を行っています。6月28日に帰国します。



## イーワイエス

ハンガーゼロ親善大使に就任

このほどハンガーゼロ親善大使に京都市山科区出身の3兄弟シンガーソングライターユニットの「イーワイエス」(関 栄理哉、義哉、真哉さん)が就任されました。



オクダデザインプロジェクト 施工例  
デザイナーズガレージハウス

## OKUDA DESIGN PROJECT.

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—

株式会社  
**オクダコーポレーション**  
〒197-0003 東京都福生市熊川447-9  
042(552)0102  
インターネットでお部屋探し <https://okuda-re.co.jp>

## サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	フリガナ	姓	名
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL408号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください		
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。		
<input type="checkbox"/>	①毎月( )円	(1口1,000円)	
<input type="checkbox"/>	②一時募金として	円	協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。		
<input type="checkbox"/>	毎月( )円	(1口500円)	
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。		
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落し申込書を送って下さい。		
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。		

上の申込書をコピーして、必要事項を記入の上、FAX又は郵送にて大阪事務所までお送りください。確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたします。

## ハンガーゼロ海外駐在員短信

- 小西小百合(ボリビア)  
6月13日に再びボリビアに派遣しました。
- ジェロム・カセバ(コンゴ民主)  
5月13日に出発、ルワンダでの



## 災害に備える「パンの缶詰」

賞味期限が5年で、卵不使用で「まもり高める乳酸菌 L-137」を配合し健康にも気遣った「パンのかんづめ」です。通常価格は1缶500円(税別)ですが、特別価格セットをご用意しま

した。災害に備えてぜひご用意ください。

1セット送料込み2,300円でお届け。  
2セット送料込み4,000円。3セット送料込み5,000円。いずれの場合も沖縄・北海道は500円加算。  
お支払い:銀行振り込み、または郵便振替の後払い

※送金はキングダムビジネスまで。

お申し込み:  
(株)キングダムビジネス  
スマートフォンは右のQRコードから  
電話注文:06-6755-4877



## 【ウクライナ緊急支援募金】

募金は…①郵便振替 ②ホームページからのクレジットカード決済利用の2種類

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構 「ウクライナ緊急支援」と明記

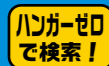
②ホームページ 募金画面からクレジットカード、コンビニ決済がご利用いただけます。※現地の活動はFacebookでも報告しています。



ハンガーゼロ サポーター 現在...5319名 Child Supporter チャイルドサポーター 現在...1094人

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト  
①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構  
②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



●Vポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,741,354ポイント(円)のご協力(25,846件)がありました。

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1  
(広島/沖縄) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155  
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782  
愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル6F  
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132  
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
TEL(510)568-4939 アメリカ合衆国の方は  
HP又QRからお申込み  
jifh.ainote@gmail.com さい。クレジット決済が  
HP <https://ainote.org> 可能になりました。



【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。



## Hunger Zero News 今月号の内容

能登半島地震活動報告(広報)	P.2-3
重機チーム&LOVE EAST	
FHIF加盟国代表者総会 報告とルワンダ活動地視察	P.4-5
チャイルドサポーター新支援地	P.6
新スタッフの 田村はんな です	P.7

ルワンダ/サルヘシ・コミュニティ訪問

被災地の道路状況は改善してきており、ハンガーゼロの拠点かほく市高松から輪島までの70数kmの道程は、損壊が激しい箇所での徐行はあるものの2時間ほどで到着。地元の方によると県外からの工事や警察車両が減少したとのこと。このことは被災地における復興の現状、すなわちお金・モノ・人（ボランティアを含めて）の動きの鈍化を示すようでもあります。6月11、12日に輪島と志賀町を訪れ、見てきた活動の実際を報告します。（広報・鶴浦）



## 重機チーム [輪島]

## 大切なモノの取り出しから復興へ

11日は輪島で活動中の重機チームリーダーの川地正寛さん（広島市の工務店代表）の現場を訪ねました。重機チームは、能登ヘルプに協力する「キリスト全国災害ネット」が派遣。その費用（月600万円以上）を能登ヘルプや協力団体もサポートしています。ハンガーゼロは4月分を全額負担しました。重機チームはこの費用で活動を請け負い、被災者に全て無償で作業を行っています。

重機チーム＝解体作業を連想しがちですが、チームの役割の柱は「大切なモノの取り出し」です。取り出すモノは、個人宅であれば貴重品類、会社関係であれば出荷前商品や工作機械、職人の道具類など被災者にとって「大切なモノ」は様々です。その取り出し過程で人や重機の安全な作業のために、崩れた建物の一部を解体することは行います。また、地震で隣家（個人宅）に寄りかかっている自宅の壁の一部を撤去して欲しいという要望にも応えています。

リーダーの川地さんによると「私は大工だけど能登の現場では修復工事などは一切せずに、ただ被災者の大切なモノを出すために安全を確認しながら作業を行います」とのこと。能登には現在、広島から6人（川地氏を含む）が派遣され、



隣家に倒れかかっている壁の撤去の作業。倒壊しそうな建物を一部補強して重機の通り道を開き、この場所で作業を行っていました。

金沢市に滞在しながら毎日輪島市に入り、現場により2、3チームに分かれて作業にあたっています。計画では6月末までの予定。

この日、最初に案内された「箱瀬工房」は、輪島塗で世界的なブランドにまで発展された作家、箱瀬淳一氏の工房ではほぼ全壊でした。重機チームは箱瀬氏の見守る中、崩れた工房から貴重な出荷前の商品（最高で1億円ほど）と「作品よりも大切な道具」（箱瀬氏）のほどんどを取り出すことに成功しました。



重機チームと箱瀬氏をつないだのは被災者ながら能登ヘルプの一員でもある輪島聖書教会牧師の荒川康司氏（写真）です。箱瀬氏は作品の海外展開をしていくために荒川氏の教会で英語を学ばれ、その中で親交を温められました。この箱瀬工房での取り出し作業は「輪島塗」の業者間ですぐに広がり、また別の現場での作業がNHK報道でも紹介されて重機チームへの活動要請が増えていきました。「これまでに90件近くで取り出し作業をしてきましたが、失敗したことは一度もありません」（川地氏）とのことでした。

荒川氏は「能登の経済的な復興を考える上で、輪島塗に携わる人のトップ（経営者）の復興（事業再建の足がかり）をまず助けないと、その下で百を超える分業体制でそれぞれ工程を担う職員さんたちは廃業せざるを得なくなります。だから能登ヘルプとしての重機チームの活動は輪島全体の復興にもつながると考えています」と話しておられました。

この日はほかにも被災した地元の醤油工場での活動や倒壊した家屋での壁の取り壊しなども見せて頂きましたが、どこも人が入るのが困難な現場ばかりでした。被災地支援ではこのような技能系スキルのある人の役割も高くなっています。

被災者宅で作業のあとは記念撮影とお祈りをします。右端が天野氏

## [志賀町] LOVE EAST

## 地元社協との連携で力強い活動

翌12日、ハンガーゼロが申、ジェロムスタッフ、瀧浦ボランティアの派遣に始まり、早い段階から協力しているLOVE EAST（以下LE）の活動現場（志賀町）を訪れました。LEは、東日本大震災での活動を契機に生まれたグループでゴスペル音楽に携わるミュージシャン（故小坂忠、久米小百合、岩渕まことさん）ら、キリスト教の教職者らで立ち上げられました。

志賀町で最初に見た現場は「廃棄する大きな仏壇の搬出」でした。この作業はLEが連携している被災者支援の窓口の社会福祉協議会（以下社協）からの案件です。

LEの現場リーダー天野真信氏（ニューソングチャーチ東京牧師）は「LEの被災地支援は一人でも多くの被災者を助けるという使命を果たす上で地元の社協や行政との連携がもっとも重要となります」と明言。事実この日は一つの現



場が終わると次の現場、また次の現場というように被災者から社協に要請されるニーズをチーム（能登ヘルプからのボランティア十数名も合流）体制で効率的にこなしていました。

仏壇の廃棄を依頼された住人の方に少し声をかけると「処分してもらえるように始末はしているので全然大丈夫です。本当に助かります」とのことでした。

### 募金はクレジットカード又は郵便振替で



左のQRコードからすぐにオンライン募金ができます。クレジットカードやコンビニ決済がご利用できます

【郵便振替での送金は】00170-9-68590  
日本国際飢餓対策機構「能登地震緊急募金」明記

次の現場では、何百キロもありそうな重い灯籠の廃棄です。それを4～6人で力を合わせて搬送用のトラックに積み込みます。危険を伴う作業ですが、天野氏の的確な状況判断と作業手順で女性ボランティアも一緒に作業をします。ハンガーゼロからLEに派遣しているボランティアの瀧浦さんもリーダーを補佐する立場で頑張っていました。処分を依頼された方は「こんな重たいものを運んでもらえるとは思っていませんでした。ここは震度7でしたので孫たちのことを考えると灯籠はもう置けないですよ」と語りながら活動の様



志賀町からLEにボランティア宿泊用に無償で提供された海辺にあるテント。LEは海水浴客のために自発的にビーチの清掃作業も行っていました。

子を夫妻で見守っておられました。

「震災後の1月中頃から被災地に入り、これまで志賀町を中心に穴水町も含めて170件以上の案件はこなしてきました。社協には、LEは被災者を最後の1件までやりますと伝えています。ただ社協では活動を7月末までで考えているようですが…」（天野氏）

震災直後は倒れたブロック塀や石垣の解体作業（重機も使用）など非常にハードな作業も続いていましたが、「羽咋市で社協ルートではないボランティアによるブロック塀の撤去で事故があり、それ以降は社協ではそうした危険が伴う作業は引き受けないことになりました。だから私たちのような技能系のボランティアも必要なのですが、ほとんどいないが現状なんです」（天野氏）そうした状況下でLEは社協の対応が難しい（実質的には石川県の指針）被災者ニーズにも積極的に応え続けています。

ハンガーゼロはLEや重機チームに資金と人材で協力をしています。皆様からの募金が、このような被災者支援ともなっています。ぜひ続けて応援をお願いいたします。

### 備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！

食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。

おいしいと夢をお届けします。  
株式会社パン・アキモト

パンの缶詰 since 1995

〒329-3147 栃木県那須塩原市東小屋295-4  
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索

高知ペンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ  
大川内科  
循環器内科・内科・老年内科  
院長 大川 真理



FHIF 加盟国代表者総会



ルワンダはアフリカ中部に位置し、四国の1.5倍ほどの広さに約1300万人が暮らしています。「千の丘の国」と呼ばれ標高1,500m以上の高地のため、1年を通じ過ごしやすい農業が盛んな国です。かつてツチ族フツ族の対立から80万人以上が虐殺された1994年からちょうど30年が経った今は、アフリカで一番と言ってよいほど平和で、経済も進んだ国と言われています。



## 地域変革の担い手らが集まり学び合う

ハンガーゼロが加盟している国際飢餓対策機構連合(FHIF)では毎年、加盟各国の代表が集まる総会(EC)をもっており、ハンガーゼロも出席しています。2024年は5月21日(火)～24日(金)にルワンダの首都キガリで開催されました。今回の総会は「実際のコミュニティでどんな変革が起きているのか」がテーマで、ルワンダ屈指の実業家であるシナ・ジェラード氏も訪ねることになっていました。氏はドーナツ売りから始めて事業を大きく成長させ、村の発展に寄与してこられた方です。ハンガーゼロが支援している各国のVOC\*ファシリテーターにとってまたとない学びの機会となることから、ガーナ、ガンビア、ザンビア、シエラレオネから6名の方々が参加できるように経済的な補助をしました。参加されたVOCファシリテーターたちは、ルワンダの清潔な町の様子や勤勉な人々の様子に、大いに刺激を受けていました。またシナ・ジェラード氏が成し遂げてきたことを目の当たりにして、そのお話を熱心に聞き入り、次々と質問をしていました。成功の秘訣を聞かれたシナ・ジェラード氏の「自分に厳しく、常に謙虚で、信頼を築く」という答えは、現場で働くVOCファシリテーターたちの心に染みたようです。4カ国6人のVOCファシリテーターたちが一堂に集まったことで、互いへのネットワークを築くこともできました。意欲に燃えて帰国の途についた各国のVOCファシリテーターたちとその活動を、ハンガーゼロサポーターとなってぜひ応援してください！



### チャイルドサポーターの支援地を訪問

この総会が終了した後、ハンガーゼロがチャイルドサポーター支援をしているサルヘシ・コミュニティを訪問しました。支援チャイルドの多くが通うサルヘシ小学校では、日本からの支援で設置された水のタンクや整備された運動場を見せて頂きました。学校にはまた、子どもたちの読み書きの力を養うためのコミュニティ・ライブラリーが設置されました。週末には1冊1週間の本の貸し出しがあり、子どもたちが家でも本を読む習慣を身に付けることができるようになっていました。



### チャイルドサポーターの支援金で設置 保護者の収入向上のための裁縫教室



小学校の近くの村では、収入向上の取り組みを2つ見せて頂きました。子どもたちが健やかに育つためには、保護者が安定した収入を得ることは欠かすことができません。また、子どもたちがいくら学校で一生懸命学んでも、卒業後に職に就くことができれば学んだことを活かすことも安定した生活を築くこともできず貧困に逆戻りしてしまいます。そのため、収入向上の取り組みは大変重要な役割をもっています。

見学させて頂いた取り組みの1つは裁縫教室です。チャイルドサポーターの支援金で村の中に設置された施設で、女性や若者30人が4ヵ月間の職業訓練を受けていました。訓練を修了した受講者にはミシンが贈られ、経済的自立の



足掛かりを得ることができるようになっていきます。こうした裁縫教室が支援コミュニティにはいくつかあり、一番技術のよいグループには子どもたちが通う学校の制服を発注することにしています。そうすることで、職業訓練が終了した後も互いに切磋琢磨して技術を向上させていく機会を提供しています。

### 豆1袋を資本に生活改善に取り組む

もう1つは、最も厳しい状況に置かれていた家庭が商売を始めるために行われた支援です。保護者本人の主体性を引き出すため、資本として提供されたのは豆1袋でした。支援を受けた夫婦はその豆を売ったお金で更に多くの豆を買い、その後、メイズ(とうもろこし)、米、石鹼など村の人たちが必要とする品を徐々に増やして売ったそうです。3年が経った今では生活も安定してきて、売り上げの一部を貯めており、近い将来土地を買って商売を広げていきたいという夢も語ってくれました。チャイルドサポーターとなって、これらの取り組みの応援をお願いします。

(報告：海外事業部 浅野陽子)



### 金 大弘 (ハンガーゼロ理事) 地域の発展に貢献する実業家

ルワンダで開かれたECへの参加は、私にとって大変大きな学びと経験となりました。報告したいことが山ほどありますが、その中から一つだけ紹介します。

今回、ルワンダの実業家であるシナ・ジェラード氏が経営する会社と支援学校を訪問し見学することができました。そこは首都キガリから北西へ車で90分ほど走ったコリンガテテという山の頂上に位置する町で、ジェラード氏は地元の農民から農産物を買って販売したり、その町に工場を作って地元の人々を雇い、ジュース、チリオイル、牛乳、お菓子などの商品を製造し国内外で販売す



る事業もしていました。写真で見ると山頂には学校を作り、無償で約4,000人の子どもたちに学びの場を提供しています。そこでは、まさにハンガーゼロが目指すVOCがビジネスを通して形成され、実践されていました。企業が単に自分の利益を追求するだけでなく、企業と地元が一体となって互いに助け合い町作りをし、貧しい子どもたちをしっかりと支援して将来の人材を育てていました。私たちもこのような取り組みに学ぶと共に、日本からも何らかの形で協力や後押しができれば、ルワンダやアフリカの未来は更に明るくなると確信しました。

**カンボジア・新支援地**

# 10月から北部の3地区 30村で活動をスタート

FHカンボジアは、2024年10月からタイ国境近くのカンボジア北部オッドーミアンチェイ州ソムローン郡にある3つの地区の30村、計6,272世帯への支援活動を開始します。

支援の対象地域は、Bosbov 地区の8村、Koun Kriel 地区の14村、Samraong 地区の8村です。これらの地区には収入、保健衛生、栄養、教育など様々な課題があります。ハンガーゼロは、これらの地域で行われるチャイルドサポーター活動の支援をいたします。

### 地域の子どもの状況

地域の人々は、農業だけでは7月までしか家族が食べていけないため、乾季や収穫期ではない時期は季節労働者として国内外に一時的に移住する傾向が見られます。

この地域では、ほとんどの子どもが母乳で育てられていますが、働いている親は仕事に復帰するために生後3ヵ月間は母乳で育てた後、離乳してミルクやお粥を与えます。親が国内外に移住した場合は祖父母が育てますが、粉ミルクは入手が容易ではなく、町でしか入手できないため、裕福な家庭しか買えません。

初等教育を受けている子どもは男児よりも女児の方が多く、その理由の1つは、男児は女児よりも身体が丈夫なので、家族の農業、稲刈り、その他の肉体労働を支えるために必要だからです。Bosbov 地区の6歳児の24.8%が小学校を中退し、Koun Kriel 地区では12.5%の子どもが初等教育を受けられていません。親の中には農業に忙しく、遠く離れた場所に働きに行っている人もいるため、子どもの勉強を助けることができないばかりか、子どもたちに勉



強をやめて家族を支えてほしいと頼む親もいます。また保護者が読み書きができないために、子どもへの教育に協力したり関わる事ができない場合が多々あります。

### 教師やトイレ設置不足が教育機会の妨げにも

これらの地区には幼稚園はありません。村から遠く離れた所に公立小学校にあり、Koun Kriel 地区では、幼稚園は地区から約2km離れた公立小学校内にあります。また幼稚園や小学校で教える教師の数が限られていること、小学校のトイレが生徒数に見合っていないことが、子どもたちが幼稚園や小学校低学年教育を受けられない理由の一つだと考えられています。小学校児童100人あたりトイレの数は、Bosbov 地区で2、Koun Kriel 地区で3、Samraong 地区に2か所となっています。

新しい支援地域の子どもたちと家族、そして地域が自らの力で貧困から脱却することができるように、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

能登半島緊急支援／かほく市にて



### 新スタッフの 田村はんな です

本年4月からハンガーゼロに入職致しました、田村はんな（東京事務所に配属）と申します。大学での4年間の学びを終え、この働きに加えられたことを感謝いたします。入社して約3ヵ月が経ち、能登での支援活動、学生へのワークショップ、チャリティーコンサート参加など、さまざまな経験をさせていただきました。支援者の方や地域の人々と関わる中で、心を込めて支援活動がされていることを知りました。

## 一人一人に寄り添いつつ、支援活動を担っていききたい



私の学生時代のことで、うつになった友人がいました。話を聞いて役に立つアドバイスをしてあげたいけれどそのような知識もなく、ただ一緒に時間を過ごすことしかできませんでした。しかし、ある日その友人に「ただ一緒にいてくれる、それだけで嬉しい」と言われたことがありました。困っている友人を目の前に、私は何もできていない、無力だと思っていましたが、そこにいるというだけで意味があったのだと気づかされました。

この経験から、自分がそうであったように自分には何もできない、と書いていても、この世界に生きている一人一人、国籍や民族、貧しさや地位によらず、そこにいて尊厳ある存在なのだと、思い知らされました。

私たちが「自分には何もできない」「この世界で生きている意味がない」という思いを持つことがあります。しかし、このような気持ちを最も強く感じているのは、飢餓や貧困で苦しんでいる人々ではないでしょうか。このような人々の

苦しみ、明日食べる物さえもなく、誰からも助けられないと感じ、世界から見捨てられたような存在の人々のことを思う時、その一人一人に寄り添い、具体的な支援という形を通して、多くの人と共にハンガーゼロの働きを担うことができればと心から願っています。

### 喜びや悲しみを分かち合う世界を目指して

ハンガーゼロは、飢餓や貧困を解決するために、国内外での緊急援助や自立支援活動などを行っています。しかし、生まれた時から何年も慢性的な飢餓で苦しむ家族や、子どもたちの苦しみの声の世界のあちこちにあるのに、なかなか手を差し伸べられない現実があることをこの3ヵ月で学んできました。

多くの人々が世界に目を向け、苦しんでいる人々に寄り添い、食べ物だけでなく喜びや悲しみを分かち合う世界を目指して、ハンガーゼロでの働きに精一杯取り組んでいきたいと思えます。



SNSキャンペーンに取り組んでいます



東京事務所での学生ワークショップ



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘

## 私たちロングライフグループは、ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。

Health & Natural Beauty  
**ロングライフグループ**  
 0120-550-294  
 受付時間 9:00~18:00 年中無休  
 大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階  
 ロングライフグループ拠点: 北海道 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 千葉 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 京都 / 大分 / 沖縄 / 中国 (青島) / 韓国 / インドネシア (ジャカルタ)



### 2つの支援方法

#### 子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、地域で行われる活動をご支援いただけます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

**月々4,000円**  
 子ども1人を支援することができます。

#### 活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動をご支援いただけます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

**1,000円〜**  
 月々または自由なタイミングで支援できます。



ウェブサイトからお申し込みできます



お電話での問い合わせはCS事務局へ 直通TEL072-920-2226